

聖体の秘跡・エウカリスチア ・聖体祭儀とキリスト者の生き方・

1. ㊦ 「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」使 2:41-42

✧ パンを裂く儀式（聖体祭儀・エウカリスチア・感謝の祭儀・ミサ）は、すでに福音書が作成される前にキリストの共同体の中で行われていました。

◆ イエスの約束（ヨハ 6, 48-59）

2. ㊦ 「イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。」ヨハ 6:53-54

✧ 弟子たちが永遠の命にあずかるために、イエスはご自分自身の体と血、すなわちご自分自身を食べ物として弟子たちに与えることを約束しました。

「受難の予告が弟子たちをつまづかせたのと同様に、聖体（エウカリスチア）に関するイエスの最初の予告は弟子たちを分裂させます。「実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか」（ヨハネ 6・60）。聖体と十字架とはつまづきの石です。同じ神秘であって、つねに分裂の要因となるものです。」（カトリック教会のカテキズム 1336）

◆ 永遠の命の源であるキリストの受難と死

3. ㊦ 「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」ヨハ 15:13

4. ㊦ 「イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」（ヨハ 13,1）

✧ 人間に対する神の完全な愛の奉獻（ヨハ 13,1-17 ; 15,13）

✧ 神に対する人間の完全な愛の奉獻（いけにえ・命の奉獻）

✧ 新しい過ぎ越し（死から命へ）と新しい契約（罪の赦し、命の源である神との和解、新しい命）

◆ 自分自身を（食べ物として）与える方法（エウカリスチア・聖体祭儀の制定）

5. ㊦ 「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」1 コリ 11:23-26

6. ㊦ 「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」マコ 14:22-25

7. ㊦ 「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国でああなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」マタ 26:26-29

8. ㊦ 「イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言うておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。言うておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。」
ルカ 22:15-20

- ◇ 最後の晩餐のときにイエス・キリストは、パンとぶどう酒という形においてご自分自身を弟子たちに与えたことによって、イエスの肉を食べることと血を飲むことが可能になりました。
- ◇ 同時に、イエスはご自分自身を捧げ（奉献し）、ご自分の受難と死を予告しました。その翌日、十字架上で実際に血を流して、ご自分の命を与えました。
- ◇ 預言者エリアの杯から飲むように弟子たちに命じることによって、メシアを待つ時期の終わりを宣言します。
- ◇ 過越しの食事に新しい意味を与えました。
- ◇ 人間になって、ご自分を人の手に引き渡した神の子は、今日に至るまで、パンとぶどう酒という形において、つまり食べ物としてご自分自身を弟子たちの手に渡し続けています。

◆ 聖体秘跡の呼称

◆ エウカリスチア（感謝の祭儀）・ルカ 22,19

神が与えてくださったすべての賜物、とくに創造、あがない（救いのわざ）、聖化に感謝します。パンとぶどう酒がこの賜物を象徴（代表）になっています。

◆ 最も聖なるいけにえ（奉献）

9. ㊦ 「この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後になされた誓いの御言葉は、永遠に完全な者とされておられる御子を大祭司としたのです。」ヘブ 7:27-28
10. ㊦ 「あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」一コリ 11,23-26
- キリストの過越し（死と復活）の記念（アナムネシス・十字架の出来事（キリストが血を流すことによって結ばれた新しい契約）と復活の現在化）

「エウカリスチアはキリストの過越の記念、そのからだである教会の典礼の中で行われるキリストの唯一のいけにえの再現、秘跡的な奉献です。すべての奉献文には、制定のことばの後、アナムネシスないし記念と呼ばれる祈りがあります。（カトリック教会のカテキズム 1362）

「記念とは、聖書的には、過去の出来事を単に想起することではなく、神が人間のために行われた偉大なわざを宣言することを意味します。これらの出来事を祝う典礼祭儀の中で、出来事は何らかの形で現存し、現在化されます。イスラエル人たちは、エジプトからの解放を記念する過越祭を行うたびに、それによって自分たちの生活が活性化できるように、解放の出来事が信者たちの記憶の中によみがえってくる、と理解しています。」（カトリック教会のカテキズム 1363）

「新約聖書では、記念には新たな意味づけがなされています。教会がエウカリスチアを行うとき、キリストの過越を記念し、これが現存するものとなります。キリストが十字架上でただ一度ささげられた犠牲は、つねに成し遂げられた状態にあるのです。『わたしたちの過越であるキリストがいけにえとなられた』（一コリント 5・7）十字架の犠牲が祭壇の上で祭儀執行されるたびごとに、わたしたちのあがないのみわざが行われます。」（カトリック教会のカテキズム 1364）

- ◇ エウカリスチアは、（キリストと教会の）最高の奉献であり、神の完全な礼拝です。

◆ 主の晩餐（主の食卓を囲む）

11. ㊦ 「それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」と言
い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。」 黙 19:9
 12. ㊦ 「従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家
族であり...」 (エフェ 2:16-22)
- ◇ 最後の晩餐の記念
 - ◇ 「小羊の婚宴」は、救いの状態、つまり神と救われた人々との交わりの象徴です。
 - ◇ **聖変化**（パンとぶどう酒がキリストの体と血に変わる・形ではなく本質の変化）のためにミサは
生けるキリストとの出会いと交わりの場になっています。
 - ◇ キリストを中心とするこの集いは信者の交わりであり、神の国の約束（神と他人との完全な一致）
がもたらす希望と喜びの祝いです。

◆ 聖なるコムニオ（交わり・一致）・聖体拝領

13. ㊦ 「わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあ
なたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内になるようになるためです。」 (ヨハ 17:23-26)
14. ㊦ 「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたい
つもその人の内にいる。」 ヨハ 6:56

◇ 聖体拝領と夫婦の交わりの類似

- 愛は、相手のために生きるという無条件の決断である（commitment, コミットメント、献身、
傾倒、誓約である）。
- 「私たちは夫婦として、順境にあっても、逆境にあっても、病気のときも健康のときも、
生涯、互いに愛と忠実を尽くすことを誓います。」
- 夫婦の交わりは、身体の言語による愛の告白と結婚誓約の更新であると同時に、結婚の目的
である二人の一致の先取りである

- ◇ 聖体拝領、つまりキリストの体を自分の体に頂くことは、キリストとの完全な一致の実現を目指
す、愛の交わり（相互の奉献）であり、その一致の先取りであります。
- ◇ 聖体拝領するキリスト者は、イエスへの愛を表し、洗礼の約束、つまりキリストと一つになるた
めにキリストに従い、キリストから与えられた使命を果たすことによって、キリストに自分を奉
献するという約束を更新します。

注意！

「主イエス・キリスト、あなたのからだと血をいただくことによって裁きを受けることなく、かえって
あなたのいつくしみにより、心もからだも強められますように。」（聖体拝領前の司祭の祈り）

◆ ミサ聖祭

15. ㊦ 「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によ
って洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の
終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」 マタ 28:19-20
- ◇ ラテン語では、ミサは "Ite missa est. Procedamus in pace" という言葉で終わります。
それは「あなたたちが派遣されています。平和のうちに行きましょう。」という意味です。

参考；教皇ヨハネ・パウロⅡ世 回勅 「教会にいのちを与える聖体」

「私たちの救い主は、渡されたその夜、最後の晩さんの時に、自分のからだと血による感謝の
祭儀を定められた。それは、十字架の奉献を主の再臨まで世々に永続させるため、または、愛
する花嫁である教会に自分の死と復活の記念を託するためであった。この記念は、いつくしみ
の秘跡、一致のしるし、愛のきずなであり、キリストが食され、心は恩恵に満たされ、未来の
栄光の先取りが与えられる過ぎ越しの祝宴である。」（典礼憲章 47）

◆ 日常生活におけるイエス・キリストの記念

◇ 信仰の実践（イエスの言葉に従って生きること）の必要性

● イエスを知る

16. ㊦「しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。・・・イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。」ヨハ 2:5-11

17. ㊦「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」マタ 7:24-27

18. ㊦「そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう。これに反して、完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」ヤコ 1:22-25

● イエスとの絆を強める

19. ㊦「周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」マコ 3:34-35

◇ 弟子の足を洗う（ヨハ 13,1-17）－愛と尊敬・奉仕者である神・弟子たちのための模範

20. ㊦「ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。」ヨハ 13:14

21. ㊦「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」マタ 20:28

22. ㊦「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」ヨハ 15:12-14

23. ㊦「しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。ここでいう主とは、“霊”のことですが、主の霊のおられるところに自由があります。わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」2コリ 3:16-18

◇ キリスト者は、キリストとの交わりによって強められて、洗礼の約束や（聖体拝領によって表した）自分の望みとキリストに対する愛に忠実に生きるならば、キリストとの絆を段々と深め、ますますキリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行うようになり、イエス・キリストご自身の姿に変えられるのです。